

平成 29 年度第 1 回 伊勢市子ども家庭支援ネットワーク委員会議 概要結果（要旨）

開催日時 平成 29 年 5 月 25 日（木）午後 1 時 30 分～3 時 25 分
開催場所 三重県伊勢庁舎 101 会議室
出席委員 奥田治会長、村上洋子副会長、中森忠司委員、中井眞知子委員、鈴木光代委員、山崎幸喜委員、中居渉委員、藤原孝彦委員、伊寿秀夫委員、田口昇委員、藤田典子委員、高村貞子委員、植村法文委員、濱口憲子委員、岩崎三安子委員、岡村豊委員、新村幸治委員、高橋英雄委員、上野尚委員、岡島久美子委員
欠席委員 中井健治委員、秋山則子委員、一見良司委員、久米邦明委員
事務局 こども課こども家庭相談センター長、外 2 名
傍聴者 0 名

あいさつ

○副市長

日頃から子どものために尽力していただき感謝申し上げます。

全国又は三重県の児童相談所での虐待件数が 10 万 3260 件、1291 件と過去最多を更新している。件数増加は、虐待防止推進月間などでみなさんが通告を呼び掛けた成果であり、児童相談所全国共通ダイヤル 189（いちはやく）が定着したことが考えられる。

子どもを取り巻く問題の背景には、貧困・障がい・核家族化・親の労働環境などが複雑に絡み合っている。問題解決には、多くの機関が重層的に支援する必要があり、みなさんには様々な取り組みをしていただいている。

今回、8 名の方が新しく委員となりますが、委員のみなさんには今後も児童虐待の防止や早期発見・支援に協力をお願いします。

委嘱状・辞令交付

○事務局

伊勢市子ども家庭支援ネットワーク条例及び規則に沿って説明。

児童福祉法に規定する要保護児童対策地域協議会である「伊勢市子ども家庭支援ネットワーク」の位置づけを今年度から要綱ではなく条例に基づく市長の附属機関とした。

副市長から委嘱状（3 名）・辞令（5 名）を交付

機関紹介

構成機関（団体）機能紹介シートによる各委員から機関（団体）の紹介。

事務局紹介。

○委員

児童委員が児童相談をつなげた件数は約 50 件ある。この後、報告がある平成 28 年度の活動実績報告で相談経路別（資料 1 の P.4 参照）をみると、児童委員の件数が 2 件とある。児童委員の活動件数と大きな差がある。

報告・協議事項

(1) 副会長選任

事務局案の提示を求める発言があり、村上委員を選任する案を提示。

委員から「異議なし」の声があり、承認。 → 村上委員が副会長に決定

(2) 平成 28 年度 伊勢市子ども家庭支援ネットワーク活動実績報告

事務局から資料に沿って説明。

○事務局

機関紹介で委員から指摘のあった児童委員の件数であるが、児童相談統計は当初に相談ケースを計上すると、同一の相談種別では、経路が異なっても相談件数として計上しない。児童委員から相談は多数いただいているが、前述の理由により件数に表れていないのが、考えられる。(P. 4<児童相談-相談経路別>参照)

【各委員主な意見】

○副会長

P. 5 の児童虐待の被虐待児の年齢構成で思ったことだが、市では県と比べて 0～3 歳未満の件数が多い。保健センターなど子どもが小さい時点で関わる機会が多いのが市の特徴的傾向かと感じた。三重県の虐待相談件数 1, 291 件のうち、半数は北勢児童相談所でそのまた半数が中勢児童相談所である。前任の中勢児童相談所では外国籍の保護者が多かった。外国籍の保護者と関わる中で、言葉の壁で相談支援がしにくいことやベルトで子どもを叩くなどしつけ方法の文化的差異など様々な家庭をみてきた。

児童の在籍機関と児童相談所とが虐待対応で意見が違い対立するのではなく、お互い意見を出し合い対応していきたいので、ためらわずに虐待通告をお願いしたい。

(3) 平成 29 年度 伊勢市子ども家庭支援ネットワーク活動計画 (案)

資料 2 に基づき、事務局より提案。

→ 承認

【各委員主な意見】

○会長

計画に沿って、事務局で進めてもらいたい。

(4) その他

○事務局

市では県とともに里親制度の普及啓発に取り組んでいる。里親制度の理解を深めるため、昨年度研修会を実施したところである。県事業で「里親出前講座」を実施しているので、会議や研修の機会に是非とも利用を検討していただきたい。